

REI MEI

vol. **44**
No. **2**

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan
鹿児島県歴史・美術センター黎明館だより 「黎明」

Contents

特集

企画特別展

かごしま いきものがたり

企画展

没後120年 十二代沈壽官と苗代川

研究ノート

南九州の武士像

学芸員EYES! 第18回

中浜万次郎伺書・小松帯刀書状

黎明館のフカボリ②

敷地散策のススメ 新橋橋柱(親柱)

黎明館NEWS

イベントスケジュール

特 集

企画特別展

かごしま いきものがたり



かごしま いきものがたり

語り継がれる
人といきものとの絆

令和8年

9月29日(火) — 11月3日(火)

会場 黎明館2階 第2特別展示室
 開館時間 9:00 ~ 18:00(入館は17:30まで) ※初日は10:00開場
 休館日 10/13(火)、10/19(月)、10/26(月)、11/2(月)
 観覧料 一般 900円(700円)、高校生以下無料
 ※ ()内は団体(20名以上)、前売券料金
 ※ 障害者手帳の提示で観覧料免除(介助者1名免除)
 主催 令和8年度黎明館企画特別展実行委員会(鹿児島県歴史・
美術センター黎明館、南日本新聞社、MBC南日本放送)
 後援 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、NHK鹿児島放送局、
KKB鹿児島放送、μFMエフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム

鹿児島の人々は、海や山に囲まれた自然のなかで、さまざまないきものとともに暮らしてきました。いきものは、食べものや仕事を支える大切な存在である一方、ときには畏れの対象にもなりました。また、祭や伝承のなかでは、神と人をつなぐ存在として考えられてきました。

本展では、暮らしの中で使われた民具や、祭・信仰に関わる道具をとおして、人といきものとの深いつながりをご紹介します。そして、これから生きる私たちといきものとの関わりを考えます。



みなさん、こんにちは。

ぼくは黎明館の収蔵庫で暮らしている、**垂水人形の座犬**だよ。今回のたよりでは、秋に行われる企画特別展を担当している、学芸課の古殿さんに、展覧会のことをたくさん教えてもらったよ。

企画特別展「かごしま いきものがたり」はどんな展示？

今回の展示では、私たちの身の回りにいるいきものについて、「暮らし」と「信仰」の大きな2つの視点を上げています。「暮らし」では、農業や狩猟、漁業などの人が生きていくために欠かせない活動に関わるいきもの。「信仰」では、鹿児島県内で行われるいきものが登場する祭、いきものに関する昔話や伝承を、暮らしのなかで使われた民具や、祭・信仰の道具から紹介します。この他にも特別展示として、鹿児島県指定有形文化財「玩具コレクション」から、いきものを象った、かわいらしい郷土玩具をたくさん展示します。

展覧会のタイトルにこめた思いは？

展覧会のタイトルでは、「いきもの」と、あえてひらがなで表記しています。「生き物」だと、身の回りの動物や虫など、命のある生き物をイメージするのではないのでしょうか。今回の展示には人を騙す力をもった不思議な動物、伝承や昔話に登場する妖怪、祭や祈りの場で登場する、造られた生き物など、命をもたないものや実在しないものも登場します。そのため、「いきもの」という表記には、命のある・なし、実在する・しないという枠組みを超えて、人間、動物、そして人々の精神世界に息づく存在などを含めた、広い意味が込められています。



展覧会のおすすめ資料は？



おすすめその①

カギヒキ祭の牛

鹿屋市の中津神社で行われるカギヒキ祭に登場する牛の模型です。今回のたよりの表紙や企画特別展のポスター、黎明館の年間スケジュールなどに掲載しており、広報を頑張ってくれている資料です。

カギヒキ祭はその年の豊作を祈る祭で、この牛を引いて、代かきなど米作りに関わる作業を再現します。田を耕す労働力としての牛、豊作の祈りを託された信仰のなかの牛と、牛へのさまざまな見方を教えてくれる、今回の展覧会でもキーになる資料の一つです。



おすすめその②

十王地獄図(叫喚地獄)

死後の世界にいる、死者の生前の行いを裁く10人の王を描いた資料です。死者への供養や信仰の大切さを説いています。実はこの十王地獄図にも多くの生き物が描かれています。ここでは牛を紹介しますが、なんとこの牛、地獄でも働いています。鬼とともに馬鍬を使い、罪人の舌を耕しているところです。見てみると舌がムズムズしてきますが、地獄という異界においても、労働力としての牛のイメージが反映されている、とてもおもしろい資料です。



おすすめその③

河童ノ手足

(個人所蔵・都城島津邸寄託)

鹿児島県は、河童(ガラッパ)伝説がたくさん残っている地ですが、このような具体的な資料はほとんどありません。過去の報告書や書籍を見ると、県内にも「河童の手」を所有している家があったという記載もありますが、現在はどこにあるか分かりません。お隣宮崎県のちょっと不思議な河童の手足。ぜひご覧いただきたいです。



おすすめその④

村瀬宣得筆「大石兵六夢物語絵巻」

(鹿児島県立図書館蔵)

鹿児島県に伝わる説話、「大石兵六夢物語」を描いたものです。狐退治に挑んだ大石兵六が、その道中で狐の化けたさまざまな化け物に遭遇します。鹿児島県民には「兵六餅」でおなじみですが、どのような話で、どのようないきものが登場するか、改めて見られてはいかがでしょうか。展示場では、この大石兵六のお話を動画でもご覧いただけるよう準備しています。お楽しみに！



サワラエギ



鹿のヨビブエ

おすすめその④・⑤

サワラエギ、鹿のヨビブエ

大型の魚を獲るための疑似餌と、狩猟で鹿をおびき寄せるための笛です。どちらも魚や獣を獲るための道具ですが、それぞれの獲物の習性をよく研究し、作られています。さらに、これらの道具の素材にも注目です。サワラエギにはヤギのひげ、水牛の角、ヨビブエには猿の頭骨などが使われています。生き物のさまざまな利活用を知ることができます。



最後に、展示会のPRをどうぞ！

今回の展示会の主役は、つい50年ほど前まで使われていた民具です。この民具が生活や信仰の場で、人といきものをどのようにつないできたのか、ついこの前の昔に、思いをはせてご覧ください。

また、会期中には講演会やワークショップを行います。いずれもすばらしい先生方にお越しいただきますので、展示の内容をより深く知ることができるのではないのでしょうか。こちらもぜひご注目ください。



垂水人形 座犬
(鹿児島県指定有形文化財
「玩具コレクション」)

講演会・展示解説講座 事前申込制(電子申請または郵便往復はがき)

申込詳細は、黎明館ホームページ・SNSまたはチラシでご確認ください。

A 記念講演会①

日時 10月3日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 黎明館2階 講堂
講師 佛教大学名誉教授・日本民俗学会元理事 八木 透 氏
演題 人と動物をめぐる民俗
—よりよき人と動物の関係をたずねる—
【応募期間:8月4日(火)~9月16日(水)】

B 記念講演会②

日時 10月17日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 黎明館2階 講堂
講師 兵庫県立歴史博物館学芸課長 香川 雅信 氏
演題 妖怪たちの「野」—「人新世」の妖怪学—
【応募期間:8月4日(火)~9月30日(水)】

C 展示解説講座

日時 10月24日(土) 13:30 ~ 15:00
会場 黎明館2階 講堂
講師 黎明館学芸専門員 古殿 志賀子
演題 かごしま いきものがたり
【応募期間:8月4日(火)~10月7日(水)】

ワークショップ&展示解説

「消しゴムはんこでエコバッグを作ろう」

会場 黎明館3階 講座室
黎明館2階 第2特別展示室

日時 10月11日(日)
10:00 ~ 12:00 (受付9:40 ~)
13:30 ~ 15:30 (受付13:10 ~)

定員 各回20名

参加料 一般700円、高校生以下無料

申込方法 電子申請・先着順

講師 貼り絵・消しゴムはんこ作家
横手 順子 氏

展示解説 黎明館学芸専門員
古殿 志賀子

【応募期間:8月20日(木)~9月23日(水)】

※ 消しゴムはんこの製作はありません。

世界を見つめた薩摩焼の人

没後120年

十二代沈壽官と苗代川

*Chin Jukan XII
and Naeshirogawa*

令和8年

9月10日(木) - 11月29日(日)

黎明館3階 企画展示室

関連イベント

(申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。)

学芸講座(展示解説講座)

「没後120年 十二代沈壽官と苗代川」

| 講師 | 黎明館主任学芸専門員 深港 恭子

| 日時 | 令和8年11月14日(土) 13:30 ~ 15:00

| 会場 | 黎明館3階 講座室

| 申込 | 事前申込制(電子申請または往復ハガキ)
応募期間:10月16日(金) ~ 10月30日(金)

※ 講座後に、企画展示室で展示解説を行います(要団体入館料)

展示解説

| 日時 | 令和8年9月26日(土) 13:30 ~ 14:10

10月10日(土) 13:30 ~ 14:10

10月25日(日) 13:30 ~ 14:10

11月14日(土) 15:10 ~ 15:50

| 会場 | 黎明館3階 企画展示室

※ 要入館料、事前申込不要

本年は第2回パリ万博をきっかけにまきおこった薩摩焼の大輸出時代を牽引した十二代沈壽官(1835-1906)の没後120年に当たります。そこで朝鮮人陶工の渡来にはじまり、藩の保護と統制により朝鮮風俗を保持した薩摩焼の里という特殊な地域となった苗代川の歴史と、その末裔である沈壽官が創業した玉光山陶器製造場の経営や製作活動を振り返る企画展を開催します。

第1章

薩摩焼の里 苗代川誕生

朝鮮出兵により連行された朝鮮人陶工らの一部が、慶長8年(1603)に串木野島平から内陸へと移住し、苗代川が誕生しました。



苗代川由来記 江戸時代~明治時代



朴平意追賞授与證写 明治時代 ◎

薩摩のなかの異国 —苗代川の意味と意義—

薩摩藩は住人に家や井戸などを与えて優遇する一方、朝鮮の姓や風俗を保持する統制を行い、苗代川は異国の様相を呈しました。

第2章



朝鮮語教本「漂民対話」
嘉永7年(1854) ◎



染付松竹梅鶴亀図大皿 安政4年(1857) ◎



三国名勝図会 明治38年(1905)刊 原本:天保14年(1843)

第3章

十二代沈壽官の登場

明治8年(1875)に玉光山陶器製造場を創業した沈壽官はすぐさま海外輸出に着手し、その販路は国内のみならず海外の幅広い地域に広がりました。



皇后宮大夫香川敬三通牒 明治25年(1892)10月31日 ◎



十二代沈壽官写真 ◎

第4章

博覧会の時代を生きる

明治時代は博覧会の時代と言われます。沈壽官は国内外の博覧会に出品して受賞を重ね、その評価を原動力に海外への販路を広げていきました。



第三回内国勸業博覧会褒賞証(二等有功賞) 明治23年(1890) ◎



シカゴ万国博覧会出品本目録 明治25年(1892) ◎



錦手虎置物 十二代沈壽官 19世紀後半

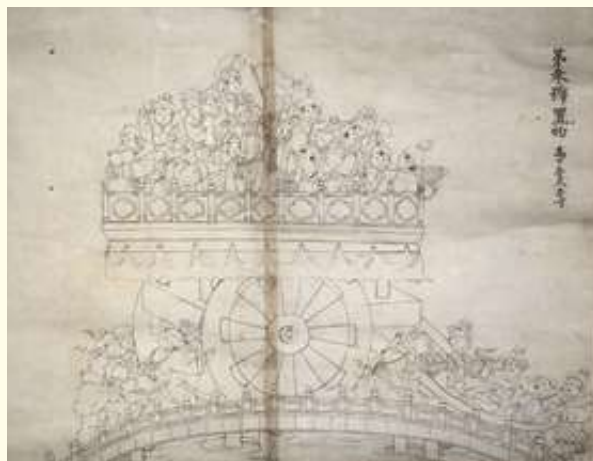
第5章

沈壽官の工芸維新 —民衆をみつめる造形—

京都や横浜で作られる薩摩様式との激しい競合にさらされる中、沈壽官は他の追随の許さない薩摩焼独自の美を追い求めました。



宮内省買上品下絵図「植木鉢・盆栽鉢図」 明治26年(1893) ◎



皇室買上品下絵図「唐子遊ビ橋渡之図」 明治25年(1892) ◎



錦手大原女像 十二代沈壽官 19世紀後半



錦手牡丹文花瓶 十二代沈壽官 19世紀後半

南九州の武士像

学芸専門員 吉峯 真太郎

小学校社会科の歴史の学習に関する年表には、鎌倉時代から江戸時代までを「武士の時代」と表記しているものがあります。また中学校の歴史の授業でも、「武士の世の始まり」や「武士による全国支配」といった文言が使われます。しかし、およそ10世紀ごろから登場する武士が900年もの長い間、同じ存在であったはずがありません。江戸時代以前には「武士」身分ありません。そこで今回は、「武士」とはどういった存在だったのか、その一端を紹介します。

そもそも、「武士」とは武装した戦士、戦闘に従事する階層のことを指します。その起源については様々な研究がされていますが、天慶の乱(931~947年)鎮圧の勲功者たちが始まりだとも言われています。平安後期以降、摂関家や貴族の家臣として、または地方の有力な豪族として武力を用い、力をつけた者たちは、治承・寿永の乱(1180~1185年)を経て、鎌倉幕府の主従制に組み込まれ御家人となりました。御家人となった武士たちは、その証として所領の支配権を安堵され、その代わりに軍役を勤めました。一方、地方には御家人ではない、もともとその土地に住む武士もいました。南九州では、島津氏や渋谷氏、菱刈氏などが前者、肝付氏や谷山氏などが後者にあたります。

では、何をもって武士とするかの一つの指標として「記名」があります。例えば、建久8(1197)年に幕府が地頭の任命状態の調査と御家人役の賦課とを目的に作成した、薩摩・大隅・日向の「建久図田帳」には多くの御家人の名も記されています。そこに名前が上がっている者は武士(御家人)であったと確認できます。また時代が下り、南北朝期の資料に「綸旨所望輩交名帳」というものがあります。これは、南朝方として九州に下向した懐良親王の元に参集することを誓った武士の名が書かれています。この人物たちは、武士の自覚があり、かつ社会的にも武士と認知されていたと言えます。



「綸旨所望輩交名帳」個人蔵 黎明館保管

そのような武士は、惣領(当主)の権限が強く、一所懸命にその土地を守り、代々長男にその土地を受け継いでいく、といった印象が強いのではないのでしょうか。しかし、鎌倉時代には惣領を中心に所領、地頭職などを一族で分け合う「分割相続」が一般的でした。家の継続性が重視され、娘や未亡人(妻)も相続者になりました。そのため、代を重ねるごとに土地が細分化し、一族の経済力・軍事力が弱まります。やがて惣領の統制力も弱まり、庶子が自立していきます。そこで南北朝・室町期ごろになって、みなさんのイメージする「単独相続」が主流となるのです。

また、多くの武士(御家人)は、褒美として土地を割り当てられているのであり、その地に縁もゆかりもないことがあります。そこで土地を治める正当性を確保するためにも、地域の宗教・救済事業に参加していきます。南九州では、武士の生き方と修験道が深く結びつきました。霧島山・冠嶽などの霊山を背景に、山岳で厳しい修行を行う修験者(山伏)は武士や村落と密接に関わり、寺社の再興や神仏の守護、さらには身を守る技法の伝授にも携わりました。修験者を武士として仕官させたり、武士でありながら修験を行ったりする家も現れました。武士たちは合戦や災厄に備え、修験者から護符や護身法を授かる、戦の前に護摩祈祷を受ける、真言や印を戦場で用いるなど、修験道を積極的に取り入れました。



宝殿再興に際し、修験者である宇留島氏によって作成された棟札

個人蔵 黎明館保管

戦い方も時代によって変化していきます。武士の戦いといえば、刀剣で切りあう姿を連想してしまいがちですが、平安末期から鎌倉時代の武士は「弓矢取」や「弓馬の士」とも呼ばれるほど、弓矢を扱います。そのころの戦は馬から矢を射る騎射戦が中心で、刀剣は矢を使い尽くした後や落馬時に使うのが一般的でした。南北朝期以降に馬上で、刀剣類で戦うスタイルに変化していき、弓矢とのちに伝来する鉄砲は、歩兵の武器となります。南九州の武士たちは農業に携わりながら、馬を操り、弓を射、武器を扱う技を日々鍛錬し、戦いに備えました。

そのような姿も、戦国期を経て、江戸時代になると様変わります。全国では兵農分離が進み、多くの武士が城下町で生活するようになりました。しかし南九州では城下に住む城下士とは別に、各地の外城(郷)に武士(郷士)を土着させました。戦いに備えながら土地を耕し、地域に根ざして生きた姿は、江戸時代以前の武士の在



「樺山某肖像画」個人蔵 黎明館保管

机や墨の書かれた紙、冊子や巻子などが描かれ、江戸時代の武士が事務官として働いていたことがわかる。

り方が続いたものといえます。やがて島原・天草一揆を最後に大きな戦いの時代が終わると、武士の役目は変わっていきます。城下士は、藩政を支える事務方としての武士になりました。また、郷士は村々を治める役人として、年貢の取りまとめや治安の維持など、地域のしくみを動かす仕事を担ったのです。郷に住み続けた武士たちは、中世的な遺物として時代に取り残された存在ではありません。土地を知り、人を知る立場だからこそ、地方行政を支える力となり、それが南九州における新しい武士の在り方となっていたのです。

【参考文献】

図録『企画展示 武士とはなにか』国立歴史民俗博物館 2010年

図録『企画展示 中世武士団—地域に生きた武家の領主—』国立歴史民俗博物館 2022年

小松帯刀の勘違い？

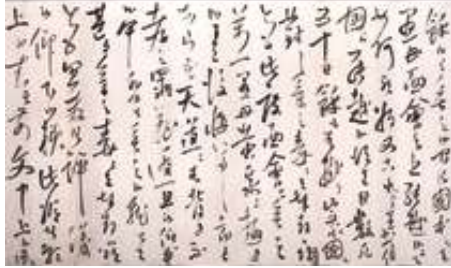


写真1 中浜万次郎伺書（部分）



写真2 小松帯刀書状（大久保利通関係文書）（部分）

再来年、令和10年のNHK大河ドラマは、「ジョン万」に決定しました。土佐の小さい漁村中浜村に生まれながら、船の難破により図らずもアメリカで約十年間生活し、そこで得た英語力や航海術等により、帰国後武士身分と「中浜」という苗字を得、土佐藩・幕府・薩摩藩等を渡り歩き、激動の幕末を駆け抜けた中浜万次郎が主人公です。

ここでは当館所蔵の万次郎関連史料を紹介します。写真1は元治元年（1864）11月に万次郎から薩摩藩当局へ提出されたもので、幕府から薩摩藩へ急に「御貸人」となり、薩摩へ下る途中であることと、その前に土佐の母に会いに行きたいという願いが記されています（『鹿児島県史料 玉里島津家史料3』1220号）。この頃薩摩藩は、薩英戦争の体験を経て家老小松帯刀の指揮のもと陸海軍の英国式への転換を急いでおり、その中心的な教育機関として「開成所」を作り、優秀な指導者を藩内外から集めていました。万次郎もその一人で、幕府から3年間の約束で招聘されていました（『鹿児島県史料3』）。写真2の同年11月19日付、京都の小松から鹿児島の大久保一蔵（利通）へ宛てた書状（大久保利通関係文書）には、万次郎が17日に京都を発ったこと、土佐へ立ち寄る可能性があること等を報せ、同人が到着したらよく話を聞いて配置してほしいと伝えています。何を教えるかも決まっていな急な人事だったと思われます。ちなみに、小松は万次郎に航海術を担当させたい意向だったようです。その後万次郎は、約半年後の慶応元年5月には薩摩を去っていますが理由などは未詳です。

この手紙にはもうひとつおまけが付いています。万次郎の苗字「中浜」が入るべき箇所が3箇所ありますが、すべて「中原」と記されています。変名かとも考えましたが、小松の勘違いの可能性も捨てられません。そうだとすれば、優秀で周囲に信頼されている人物ですが、人間臭い一面が見え、少しほっこりしますね。

主任学芸専門員 崎山 健文（歴史担当）

黎明館のフカボリ 21

敷地散策のススメ

新橋橋柱（親柱）

この柱は鹿児島城の北側、吉野橋堀に架けられていた新橋の橋柱（親柱）です。吉野橋堀は現在の栈橋通りにあった堀で、新橋はかごしま県民交流センター（カイクックス交流センター）の北側に架けられていました。「新橋」の刻字と残存する写真資料等から、橋柱（親柱）として使用されていたものと判明。藩政期の鹿児島城及び鹿児島城下の実態の究明に関わる歴史資料として、現在、黎明館の敷地内（天璋院像の近く）に展示しています。



黎明館
NEWS

令和7年度企画展図録 好評販売中



令和7年度に開催した4つの企画展を
ひとつの図録にまとめました

1冊650円（税込）

1Fまたは3Fの常設展示入口で販売中（令和9年3月末日まで販売予定）

編集
後記

令和7年度企画展図録が完成しました。昨年度開催された民俗・考古・美術工芸・歴史分野の4つの企画展の内容が1冊にまとめられています。限られた誌面の中ではありますが、それぞれの展示会の内容がぎゅっとつまった読み応えのある図録です。色んな分野が載っているの？まともにはあるの！?と思うかもしれませんが、その「個性」こそが黎明館らしさなのではないかと思います。分野ごとに異なる雰囲気を比べることができるのも、この図録ならではの！ぜひお手に取ってご覧ください。（中村）

編集・デザイン 田平晶子 中村友美

会期：令和8年12月10日（木）～ 令和9年2月28日（日）

刀 銘（一ツ葉葵紋）主水正藤原正清

会場：黎明館3階 企画展示室



薩摩刀の始まりは、大和から来た刀工・正国にさかのぼります。薩摩で生まれた波平の技は、代々受け継がれ、江戸時代に大きく花開き、将軍吉宗の前で鍛えられるほど高く評価されました。本展では、江戸時代の刀を中心に、900年にわたる薩摩刀の歩みと魅力をわかりやすく紹介します。

講演会・講座（8月～10月）

事前申込制です。申込詳細は、チラシまたはホームページ・SNSでご確認ください。

日 時	テーマ	講 師	申込期間
企画特別展関連講演会			
10/3（土） 13:30～15:00	記念講演会① 人と動物をめぐる民俗 —よりよき人と動物の関係をたずねる—	佛教学名譽教授・ 日本民俗学会元理事 八木 透 氏	8/4（火）～9/16（水）
10/17（土） 13:30～15:00	記念講演会② 妖怪たちの「野」—「人新世」の妖怪学—	兵庫県立歴史博物館学芸課長 香川 雅信 氏	8/4（火）～9/30（水）
10/24（土） 13:30～15:00	展示解説講座 かごしま いきものがたり	黎明館学芸専門員 古殿 志賀子	8/4（火）～10/7（水）
学芸講座			
11/14（土） 13:30～15:00	（展示解説講座）没後120年 十二代沈壽官と苗代川	主任学芸専門員（美術工芸） 深港 恭子	10/16（金）～10/30（金）

展示室貸会場イベントスケジュール（8月～10月）

黎明館開館時間（9:00～18:00）

期 間	時 間	イ ベ ント	会 場	観 覧 料	主 催 者 お 問 い 合 わ せ 先（敬称略）	備 考
7/3（金）～8/31（月）	9:00～18:00 （入場は17:30まで）	動き出す妖怪展KAGOSHIMA	第1	有料	MBC南日本放送事業部 099(254)7112	初日10:00開場 最終日18:00閉場
7/11（土）～8/23（日）	9:00～18:00 （入場は17:30まで）	南日本新聞社創立145年記念 大恐竜展2026	第2 第3	有料	南日本新聞社事業部 099(813)5052	初日9:30開場 最終日18:00閉場
8/26（水）～8/30（日）	9:00～18:00 （入場は17:50まで）	第25回 鹿児島二紀展	第3	無料	二紀会鹿児島支部 099(285)7882	初日14:00開場 最終日16:00閉場
8/27（木）～8/30（日）	9:00～18:00 （入場は17:30まで）	第77回 鹿児島県図画作品展	第2	無料	鹿児島県教育庁義務教育課 099(286)5298	初日9:00開場 最終日15:00閉場
9/9（水）～9/13（日）	9:00～18:00 （入場は17:30まで）	第35回 シルバー文化作品展	第2 第3	無料	社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 長寿社会推進部・ボランティアセンター 099(250)7441	初日9:00開場 最終日14:00閉場
9/10（木）～9/13（日）	9:00～18:00 （入場は17:30まで）	第63回 南日本硬筆展	第1	無料	南日本書道会 099(223)5226	初日9:00開場 最終日18:00閉場
9/18（金）～9/20（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	みさわパッチワークキルト スクエア 作品展	第3	無料	みさわパッチワークキルト スクエア 080(6457)3013	初日9:00開場 最終日15:00閉場
9/19（土）～9/27（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	第39回 MBCサムホール美術展	第1	有料	MBC南日本放送事業部 099(254)7112	初日10:00開場 最終日18:00閉場
10/6（火）～10/12（月）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	霧島神宮祭事暦原画展	第3	無料	川野 努 090(4489)9517	初日9:00開場 最終日18:00閉場
10/10（土）～10/12（月）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	第45回 大東文化大学鹿児島県人書道展	第1	無料	大東文化大学 鹿児島県人書道会 090(9575)3902	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/16（金）～10/18（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	MOA美術館鹿児島児童作品展	第3	無料	MOA美術館鹿児島 児童作品展実行委員会 099(266)3335	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/20（火）～10/25（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	「清家道子写真塾」 ソニーαクラブ写真展	第3	無料	サウンド川内αクラブ 0996(23)1188	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/27（火）～11/1（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	第50回 鹿児島合同写真展	第1	無料	鹿児島県写真協会 村上 光明 099(203)0099	初日9:00開場 最終日16:00閉場
10/27（火）～11/1（日）	9:00～18:00 （入場時間制限なし）	鹿児島フォトサロン写真展	第3	無料	鹿児島フォトサロン 0996(25)0018	初日9:00開場 最終日16:00閉場

Information

開館時間 9:00～18:00（入館は17:30まで）

休 館 日 月曜日（祝日の場合は翌平日）、毎月25日（土・日・祝日の場合は開館）、12月31日～1月2日、そのほか館が定める日

観 覧 料 一般 430円 高・大学生 270円 小・中学生 160円（令和8年度まで）

〈年間パスポート〉 一般 860円 高・大学生 540円 小・中学生 320円（令和8年度まで）

※ 観覧料が無料または割引になる場合があります。詳しくはホームページでご確認ください。

SNS

展示や催し物等の最新情報は
SNS（Facebook・X・Instagram）にてご確認ください。

@official_reimei



@official_reimei



@reimeikan



Homepage